

分担研究報告書

ニオイ記憶課題・錯視課題によるパーキンソン病における

認知症発症予測精度向上にむけた研究

研究分担者：森 悦朗¹⁾

研究協力者：馬場 徹¹⁾

1) 東北大学医学系研究科高次機能障害学

研究要旨

重度嗅覚障害を呈するパーキンソン病患者を対象に運動障害・認知機能障害の評価を行い、認知症発症の危険因子の探索および治療介入効果の有無を検証している。
当研究室では更にニオイ記憶障害や錯視課題を用いた視空間認知機能障害の評価もを行い、認知症の発症予測精度向上に向けた取り組みを行っている。

A：研究目的

パーキンソン病における認知症発症の予測精度向上を目指している。

B：研究方法

ニオイ記憶課題および錯視課題を用いた臨床評価を行い、その後の認知機能障害の変化を追跡する。

（倫理面への配慮）

ヘルシンキ宣言に基づき、東北大学での倫理委員会での承認を経て行う。

C：研究結果

現在は研究エントリー時の評価が終わった段階であり、今後症状の変化を追跡していく。

D：考察

重度嗅覚障害に加えて、ニオイ記憶や視空間認知機能障害がパーキンソン病における認知症発症に関わっているかもしれない。

E：結論

今後更なる追跡・評価が必要

F：健康危険情報

特記事項無し

G：研究発表

1：論文発表

なし

2：学会発表

なし

H：知的所有権の取得状況（予定を含む）

1：特許取得

なし

2：実用新案登録

なし

3：その他

なし